

ばく りゅう
麦粒

2022. Spring

麦粒／NO. 139

発行・キリスト教センター

目 次

新入生の皆さんへ…………… (3)

“Let it be” の人生は師と書と道具で
…………… 増 田 喜 治 (5)

福田敬太郎先生の生涯と「幽玄啓明」
…………… 小 林 甲 一 (11)



新入生の皆さんへ

敬神愛人



(創業者 F.C.クライン)

「先生、律法の中で、どの戒めが最も重要でしょうか。」
イエスは言われた。『心を尽くし、魂を尽くし、思いを
尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが
最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じよう
に重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』

(新約聖書 マタイによる福音書 22 章 36～39 節)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんは、この名古屋学院大学でのキャンパスライフを過ごしていくことになります。その上で、この大学の一員となった皆さんにぜひ知っておいていただきたいことを簡単にお伝えしたいと思います。

☆

私立の学校には、独自の理念、「建学の精神」というものがあります。名古屋学院大学の建学の精神は「敬神愛人」です。これは、キリスト教の聖典である「聖書」の言葉に由来しています。

敬神 … 神を愛し敬うこと。

愛人 … “隣人”を自分のように愛すること。

イエス・キリストは、この二つを大切にしなければならないと人々に教えました。隣人とは、近しい人だけでなく自分以外のすべての人を指すと理解されます。神は私たちを愛してくださっています。その愛をもって、私たちは神を愛し敬い、また隣人愛として他者のためにも愛を向けていく。これを本学の教育の基本にしているのです。

☆

1883 年、アメリカからフレデリック・チャールズ・クライン (F. C. Klein) という宣教師が、キリスト教の伝道と英語教育を目的として来日しました。彼は、横浜に英語学校や教会を設立し、1887 年、次の着任地として妻メアリーとともに名古屋にやってきました。彼らは、名古屋に着いたその日から英語の学校を開いたと伝えられています。その時、クラインがその教育の基本理念として掲げたのが、「敬神愛人」だったのです。

「名古屋英和学校」と名づけられた彼らの学校は、1951 年、「学校法人 名古屋学院」と名称を改め、そして 1964 年、わたしたちの名古屋学院大学が誕生することとなります。

☆

新入生の皆さんは、これから数年の間、本学の学生として様々なことを学んでいくことになりますが、勉学や研究、課外活動に勤しむのと同時に、本学の建学の精神「敬神愛人」という言葉を心に留めつつ、人間的に成長していくこともぜひ目標にしてください。

皆さんが、自分自身のことも大切にしつつ、他者を愛していくことができますように…。また、人間同士のかかわりだけでなく、人知を超えた存在に心を向けられるような謙虚で広い視野を持った人間性が、この大学でのキャンパスライフを通して養われていきますように…。

◆ チャペルへの招き ◆

各キャンパスに設置されている「チャペル（礼拝堂）」では、毎週、「チャペルアワー」というキリスト教の礼拝を行っています。聖書の御言葉と祈りを中心に、教職員や近郊の牧師さんたちによる奨励を聴くひと時です。チャペルアワーを通じて、世界の大きな文化の源流の一つである「キリスト教」という宗教の教えに触れ、これからの時代を生きていく上で大切な何かを感じていただければと考えています。

＜名古屋キャンパス	月曜日（月 1 回）	8：30～40
しろとりチャペル＞	火曜日	13：00～13：30
＜瀬戸キャンパス チャペル＞	金曜日	13：00～13：30

チャペルや付設のキリスト教センターでは、チャペルアワーの他にも、学生活動や聖書研究会、宗教講演会、コンサートなど様々な行事を行っています。詳細はキリスト教センターの掲示板をご覧ください。

チャペルの開館時間は、原則、平日の「8 時 45 分～16 時 45 分」です。皆さんのための空間ですので、最低限のマナーは守りつつ、気軽に利用してください（大声でのおしゃべり、飲食はご遠慮ください。）

ピアノは練習のためであれば使用可能です。また、パイプオルガンの使用については、必ず事前にキリスト教センターにご相談ください。

チャペルの中で静かに自分と向き合い、語りかけ、そして内なる声に耳を傾けると、新しい導きをそこに見出したり、また何か発見があるかもしれません。ぜひ、チャペルに足を運んでみてくださいね。

“Let it be”の人生は師と書と道具で¹

増 田 喜 治

「神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「私は主の仕え女です。お言葉どおり、この身になりますように。」そこで、天使は去って行った。

(新約聖書 ルカによる福音書 1章37～38節)

“Let it be”²を聴いたことがありますか？この歌はビートルズが解散してから約一ヶ月後の1970年5月に発表されました。今から約半世紀前です。この歌では“Let it be”のフレーズが36回も歌われます。“Let it be”と聞くと、メロディーが頭の中に浮かんでくる人もいますでしょう。さて、この“IT”とは何でしょうか？これは既に言及された無生物を示唆するのではなく、ある状況を表していると考えて下さい。従って、この箇所は「あるがままに」、「そのまま」、「流れに身を任せて」、「そのまま大丈夫」、「なるようになるから」と多種多様な日本語訳が存在します。斎藤和英大辞典では「かまうな」「ほっておけ」と表記されています。この歌詞には、問題 (trouble)、

暗闇 (darkness)、挫折 (broken)、混沌 (cloudy) という単語が頻繁に出てくることから、“IT”が暗示する状況は大変困難で厳しいものだと考えられます。邦訳ではmother Maryを聖母マリヤと訳す場合が一般的ですが、私はmother Maryは作詞者のPaul McCartneyの母さん、Mary McCartneyと考えてます。彼の母が夢の中で語ったと言われる知恵の言葉を、息を深く吸い込んで“Let it be”と何度も唱えてみましょう。もしかすると試練の中にあっても、困難を乗り越える素晴らしい自己治癒の手段となるかもしれません。

しかしMother Maryが聖母マリヤとすれば、“IT”は試練ではなく、希望に溢れる“IT”を意味します。ルカによ

¹ 2021年12月21日に名古屋学院大学のクリスマス礼拝の奨励内容に筆者が加筆した。

² お勧めのサイトです。https://www.youtube.com/watch?v=1LMSOfs10mA

る福音書³では、乙女マリヤが救い主であるイエス・キリストを身籠るという処女降誕の知らせが記述されてます。常識を超えたこの知らせに、マリヤは疑います。しかしマリヤは「神にとって不可能な事はありません。あなたのおことば通り、この身になりますように」⁴ という告白し、全知全能の神への全き信頼を表明し「今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者」⁵ と呼ばれるようになります。

私の人生にも二つの夢に溢れる“IT”がありました。その一つは、十字架に架けられ死んで三日目に蘇ったキリストに、この私が愛されているという“IT”でした。父親に対する敵意が殺意に変質しつつある不安定な思春期に、大槻紀夫先生⁶を通して次の聖書箇所を示されました。「私は戸の外に立ってたたいている。誰でも私の声を聞いて戸を開けるなら、私はその中に入り彼と食を共にし、彼もまた私と共に食事をするであろう」（黙示録3：20）。この聖書の箇所を詠み上げた時、イエスキリストが聖書を通して

私に直接語っているような心持ちがしました。このキリストを心の中に受け入れた後に、私の心に大激震のような変遷が徐々に作動していました。それは父親に対する敵意と殺意が、彼を受け入れて愛する力が芽生えたのです。これは全く自分自身から出たことではなく、キリストの愛が私を変革したとしか考えられません。この父もキリストを信頼し、92歳で私の手を握り天国への旅立ちをしました。愛する事に不十分な私はこのキリストの愛で日々造り変えられ、妻と長男、長女並び周りに存在する方々を愛し続ける愛の中で成長しています。一つの奇跡は次の奇跡に繋がっているようです。

もう一つの示された“IT”は大学の教員になるという夢でした。神戸市外国語大学の名誉教授であり既に天国に旅立った河野守夫先生の研究室に学生時代に頻繁に通っていました。そこで先生に「僕は将来、大学の教員になりたいです。」と語ったところ、単刀直入に「あんたは大学での教育、研究者に向いていない。」

³ ルカによる福音書1章26-38を読むと全体像が掴める。

⁴ For with God, nothing will be impossible... Let it be to me according to your word. (Revised Standard Version, 1952) 「言葉の通りになりますように」は Let it beと訳されている事に注目。

⁵ ルカによる福音書1：48b

⁶ 単立東灘バプテスト教会の主任牧師

と断言されました。普通は恩師に駄目だと言われたら諦めたでしょう。しかし、私は単純に諦める事が出来ませんでした。大学卒業後は英語塾を開業しましたが、ただ自分の英語力の無さを実感しました。そして、静岡大学教育学部専攻科にて英語教授法を鳥居次好先生の指導下で専攻する事になりました。英語教育と音声学の権威であった先生と膝を交えて色々と語り合いました。実に刺激的で楽しい時間でした。当時、鳥居先生は、アルファベットの発声時における日本人と米人の重心運動の比較を平沢弥一郎先生と実験されている姿を垣間見の中で将来の研究テーマとなる身体運動の重要性に大いに啓発されました。また脳性小児麻痺のお孫さんの歩行を観察して「歩行と言語」⁷の関係性について深い洞察をされました。この体験が知的障害者の方々の英語教育、聴覚障害児者の外国語教育、人工内耳装用児の英語教育の研究に繋がっていくとは当時は夢にも思っていませんでした。

その後米国ウイートン大学大学院で修士号を修了した後、立聖館学院・英会話科のディレクターを経て日ノ本学園短期大学・英米学科にて10年間教育と研究を

実践した後に、1994年に名古屋学院大学経済学部専任教員として採用されました。その応募に際して「貴方を名古屋学院大学の教員応募において推薦しましょう」と語り、推薦文を書いて頂いたのが「大学教員は無理だからやめておき」と明言された河野守夫先生でした。2022年3月31日で私は28年間の名古屋学院大学における教員生活に終止符を打つことになります。もしあの時、河野先生に言われて“IT”を諦めていたら現在の私はありません。“Let it be”の精神、つまり素晴らしい夢を示されたら、たとえ誰になんと言われようと諦めずに持ち続ける事が必要ではありませんか。素晴らしい“IT”が貴方に啓示されたら決して諦めない、これがNGU (Never Give Up) のスピリットです。

人生は冒険です。乙女マリヤが処女降誕の奇跡を信じたのも大きな冒険です。キリストが約2000年前にこの世に来られたのも冒険です。クリスマスを待ち望むアドベント（待降節）は正に神ご自身の冒険（adventure）であった事を顕示されました。神ご自身が冒険をされたのですから、私の人生には様々な冒険があり

⁷『歩行と言語、身障の孫の成長の記録』三友社出版、1981

ました。留学時代に知り合った香港出身の女性との結婚も私の人生で大きな冒険の一つでした。そして退職後も妻とどのような冒険生活を継続させるのかが楽しみです。

人生は冒険だと語ってきました。しかし、冒険するにはある程度の準備が必要です。私の経験から3つの方法を紹介します。第一番目は自分の「師」に出会う事です。最も簡単で確実に師に出会う一つの方法を紹介しましょう。まず名古屋学院大学のホームページ (<https://www.ngu.jp>) を開いてみて下さい。メニューバーから「学部・大学院」を選択し、自分の学部を選択して下さい。次に右側のメニューバーから「教員紹介」をクリックすると学部長の挨拶があり、写真の下に「詳しいプロフィール」があります。所属教員の場合も同様です。プロフィールには、各教員の履歴、学歴、学位、職歴、研究分野、研究助成、研究業績、学外活動などと全ての情報が一般公開されています。貴方の興味ある研究活動をしている教員はいませんか？自分の所属以外の学部の教員でも構わないです。検索し、その先生の研究室のドアをノッ

クしてみて下さい。正に「叩けよ、さらば開かれん」(マタイによる福音書7:7)です。その先生の研究分野や発表された論文などを一読して簡単な質問を準備しておくの良いかもしれません。馬鹿と思われるような質問でも一向に構いません。会話が盛り上がりて珈琲やお茶が出たら大成功です。辛辣な事を言う教師がいるかもしれません。そんな人こそ自分にとって大切な人になるかもしれません。

2番目は自分の可能性を拡散してくれる「書物」に出会う事です。図書館の書棚に並んでいる本との出会いを楽しんで下さい。また訪れた教員の研究室にある本を眺めているだけで、その先生と書物の関係性が伺えるでしょう。ベストセラーと呼ばれる書物は多々ありますが、私のお勧めは、世界最大のベストセラーである聖書です。特に英語を学ぶには最高のテキストです。この学びを深めるのに BibleGateway⁸ がお勧めです。日本人には理解できない原罪、贖罪、契約などの聖書特有の概念がありますが、キリスト教センターが主催している聖書研究会が開催されています。是非、参加してみて

⁸ <https://www.biblegateway.com> 60種類の英語聖書が無料で提供されており、聖書研究や語法研究に有益。

下さい。

3 番目は一生使える有益な「道具」に出会う事です。良い道具は自己形成を助け、ボランティア活動などの奉仕活動に威力を発揮します。私の 1 番目の道具は自転車です。風を感じながら自転車で山野を走るのが最高のリラクセーションです。アジア最大の湖、トンサップ湖周辺の750キロをカンボジア井戸支援する為に学生達と過去に三度実施しました。殆ど信号なしの舗装道路を自転車で走ると、カンボジアの人々の優しさと同時に70年代後半のボルボトラによる大虐殺の厳しい歴史と国が抱えている難題を突きつけられます。しかし支援を通して自転車でカンボジアの未来を若者達と共有する事が可能なのです。2 番目の道具は珈琲ミルです。ゴミの山に放置されていた木製ミルを拾って豆を挽き始めたのが珈琲人生⁹の始まりです。手動ミルで毎朝、豆を砕く時に思い出すのがダビデの祈りです。「神への生贄は砕かれた悔いた心、神よ、あなたはそれを蔑まれません」（詩篇51：19）高慢な心が砕かれて、神の御前で安らかになります。最後の道具は蓄音器です。約40年前に友人が英国か

ら購入してきた蓄音器を初めて聞いてすっかりとその魅力にとりつかれました。エジソンがPhonograph（音を記述する）を発表した1877年の翌年、明治11年に「蓄音器」ではなく、「蘇音器」、「蘇言機」という訳語で日本に導入されました。音楽や言葉を蘇らせる魅力は私個人の音響生活の一部となるだけでなく、認知症高齢者の方々の音楽療法の実践と研究活動へと発展しています。

これからの学生生活において、良き師（メンター）に出会うため、大学の研究室のドアをノックしてみして下さい。また図書館の書架を散策しながら良き書物に出会って下さい。最後に一生使える道具、自分と他者を豊かにする道具に出会って下さい。正にコロナ禍にあって状況が思わしく無い時も“Let it be”、そして良き出会いがあれば“Let it be”と唱えて更に実り多き大学生活を謳歌して下さい。

退職後は妻と二人で日本各地を車で旅する予定です。蓄音器や蘇音器の伝道師として若い世代にその魅力を伝えつつ、音楽療法の実践と研究を継続します。2023年2月には第4回の750キロ・カン

⁹ 詳しくはこちら→Yoshi's Blend (<https://vimeo.com/35676569>) 又は大ナゴヤ大学講座→ (<http://dai-nagoya.univnet.jp/teachers/detail/255>)

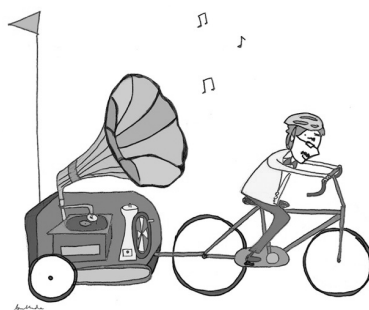
ボジア・チャリティーライドで、カンボジアの学校建設プロジェクト¹⁰を計画中です。その為に自転車に乗って訓練を続ける日々が続きます。SDGs¹¹だけでなくバッハのSDG¹²を心に刻みつつ天国に

至るまでは地上での冒険を享受します。良き師によって名古屋学院大学へ導かれ、自由な雰囲気の中で教育と研究そして社会活動を思う存分実践できた事を喜びとし感謝に絶えません。

(ますだ よしはる リハビリテーション学部教授 2021.12.24)



幸せな結婚生活は両目を瞑る！



三種の神器でカンボジア一周？

¹⁰ 参加に関心のある方は 神藤倫良君 (23F0086) 又は光本慶太君 (24C1129) まで。GoogleでCambodia Charity Cycleと検索すると今までの活動が閲覧可能。

¹¹ Sustainable Development Goals 持続可能な目標

¹² Soli Deo Gloria (ラテン語)「神にのみ栄光」の意、J.S.バッハの楽譜の最後に記された略語

福田敬太郎先生の生涯と「幽玄啓明」

小 林 甲 一

私は、すでにそれを得たというわけではなく、すでに完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスによって捕らえられているからです。きょうだいたち、私自身はすでに捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

(新約聖書 フィリピの信徒への手紙 3章12節～14節)

福田先生の生涯とご功績

本学の初代学長福田敬太郎（1896年～1980年）先生は、物心がついた時からキリスト者としての道を歩むとともに約50年にわたり日本キリスト改革派神港教会長老をお務めになり、戦後の改革派を代表する信者として教会活動にまい進されました。また、神戸高商から東京高商へと進まれ、ピューリタンの信仰に導かれた独自の生活哲学を究めるための学問として経済学研究の道を志し、ハーバード大学やケルン大学にも留学されて研鑽を積まれたのち、1929年には取引所論・市場論を専攻する新進気鋭の学者として神戸商業大学助教授に着任されました。戦

後は、わが国の経済学・

商学分野において「福田商学」と呼ばれた独自の学問体系を構築し、神戸大学経営学部長お



よび神戸大学長（1959年～1962年）を歴任されました。先生は、「学生時代に経済学者A. マーシャルの『人間の生活に根本的に動かすところの動因に宗教と経済がある』という言葉に感銘を受けた」とよく話されていたそうですが、まさにこれら2つを1つのものとして、生涯をかけ全身全霊を傾けて追究されたわけです。

そして、福田先生は、1964年4月に名

古屋学院大学の開学とともに初代学長に就任されました。名古屋市郊外にキャンパスをおいた当時の本学は、東海地区では比較的早くに創設されましたが、経済学部単科の小さな私立大学でした。そのころは、高等教育の拡充という国の方針に従ってわが国全体が大学の新設や学部増設および定員増や施設拡大に沸いていたこともあり、本学も、開設直後から拡張路線の下で総合大学化を模索しつつ、1968年4月には新たに開設した瀬戸キャンパスに全学移転しました。今では過去の話ですが、この時代の大学運営はかなり大変だったようです。福田先生は、陣頭指揮に立たれてその激務に当たられ、1974年11月までの約10年間の長きにわたり学長職を担われ、その後は学校法人名古屋学院大学の理事長（1974年6月～1980年1月）もお務めになりました。福田先生が初代学長として、理事長としてお働きになっていなければ、あの困難な時代に本学の礎が築かれることはなかったかもしれません。そして、おそらくはキリスト者としての使命感と大学人としての強固な信念をお持ちでなければ、先生がこのようなご功績を果たされることはなかったのではないのでしょうか。

「幽玄啓明」とは

福田先生は、入学式や卒業式など公式行事の場で建学の精神である「敬神愛人」とともに「幽玄啓明」という言葉をよく口にされました。漢学の素養が深い先生らしい四字熟語ですが、これには、名古屋学院の伝統ある「敬神愛人」を建学の精神として大切に受け継ぎながらも大学としてもう1つのスクールモットーがほしい、新たなキャンパスが拓かれる瀬戸・品野の森にふさわしい大学の理念を掲げたいという先生の強い想いがあったのでは、と拝察いたします。（以下、引用や抜粋はすべて『幽玄啓明』から）

先生によれば、大学とは真理を探求し、人格を陶冶するところであるが、真理というものは隠されたものである。「真理というものが、そうやすやすと解ってはたまらない。真理は隠されたものである。私は、それを“幽玄”という言葉でいいかえるのであるが、真理は幽玄である。けれども隠されたものがいつまでも解らないままでは、これまた真理の値打ちもありません。真理は、それ自体、われわれに啓示されてまいります」。「…真理は求める者に明らかに開かれる、啓示されます。そこに私どもの希望がある」。

そして、こうした「幽玄啓明」は、聖



＜瀬戸キャンパスに立つ記念碑＞

書のなかのイエス・キリストの言葉「求めなさい。そうすれば、与えられる。」と共鳴します。先生によれば、「真理が何であるかを知るためには、それを求め、探求しなければなりません。私はしばしば『真理は隠されているものである』と申します。…さればこそ、探求し、さがし求めなければなりません。大学に入りましてのちは、諸君自らが隠された真理を探究するという態度が必要であります。ところでその真理は、聖書の言葉にありますように、求める者には与えられる。…真理は隠されている、すなわち幽玄である。けれども隠された真理は、それを求める者に明らかに啓示、すなわち“啓明”されてまいります。そこに私も、真理を探究する者の望みがある。…真理を追究して、それを明らかにしていくところに、わが大学の本当の値打ちがあ

る」。

「敬神愛人」と「幽玄啓明」

福田先生は、本学の建学の精神である「敬神愛人」とこうした「幽玄啓明」とは相通じると強調されています。「神を愛し、神を敬い、人を愛する」すなわち「敬神愛人」。「幽玄」のなかにある真理、そこで求める者に「啓明」される真理。

この真理を探究するうえで導きの光となるのが「敬神愛人」であり、そして「敬神愛人」そのものが求めるべき真理であると言うこともできるでしょう。ただし、「敬神愛人」は、イエス・キリストが言った「最も重要な戒め」であり、これには「律法と預言者の全体がかかっているのです」。それを求めること、それを捕らえるためにさがし求めることはそれほどたやすいものではありません。しかし、であるがゆえに「幽玄啓明」が大切なのであり、それがキリスト教主義大学で学び、教える者たちにとって希望の恵みとなるのです。

「敬神愛人」とは、神のもとで自らを戒め、すべてに対して謙虚に学び、他者を自分のように愛し、深く思いやるということです。ここで「学ぶ」こととは、本来、ただ授業に出るとか、本を読むと

いったことよりも広い意味をもっています。むしろ、大学であればこそ、大きく学ぶ、つまり大学に入って始まる本当の学びというものはあるはずです。しかし、本当の学びには多くの困難が待ち受けています。だからこそ、そこに学ぶことの大切さもあります。人を愛すること、やろうと思えばできると考えている人も多いかもしれません。友だちと仲良くする、家族と平穏に暮らす、そして好きな人、恋人ができる…。これらも大切ですが、それだけでは本当に人を愛することにはなりません。「人を愛する」ことを理解し、実践することは、学ぶことよりもはるかに難しく、私たちにとって永遠の課題であるとも言えます。「幽玄啓明」は、若者が集い、学び、人格を陶冶し合う場である大学において、こうした学びの深遠なる意義と人を深く思いやることの大切さを指し示すとともにその険しくも豊かな道のりを照らす一筋の光となるはずです。

いま、福田先生から学ぶべきこと

真理は、もちろん、ただ求めるだけで与えられるものではありません。福田先生によれば、「私たちがそれを本当に追い求めるとき、真理は私たちの前に、一

人ひとりの心に鮮やかに映ってくるにちがいない。つまり、『真理は啓明されるべきものである』。私たちは、その啓明された真理を受けとって自分のものにしなければならない」。そして、先生は、そのためには「前途を見通す力」が大切だとして、「目標を単に想像するだけではなく…思考する、方途をまとめ上げる。そして、それを自分の信念にして…、その信念を自分の生活に生かしていかなければならない」と説かれています。こうした信念で生活し、学び続けるところの先の、そのまた先に真理への道が開かれるのです。

最初に掲げた「フィリピの信徒への手紙」のなかの一節は、使徒パウロが、キリストを信じるとは何か、それを得るためにはどうすべきかを説いた箇所であり、福田先生が好んで引かれた聖句です。「…何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです」。「なすべきことはただ一つ、…目標を目ざしてひたすら走ることです。」先生は、これを信仰の支えとし、生活の信念として神に向き合った生涯を送られたのではないのでしょうか。そう考えると、「幽玄啓明」も、福田先生の信仰と信念から生まれてきた言葉の

ように思えてなりません。

初代学長である福田先生の生涯とその想いが詰まった「幽玄啓明」は、いまの私たちに何を語りかけるのでしょうか。大学としては、やはり建学の精神に向き合い、それを不断に続けていくことの大切さを改めて肝に銘じるべきでしょう。それが、必ずやミッションの持続可能性を維持しつつ、さらに高めることにつながるはずです。また、名古屋学院大学の将来像の下で、そこから浮かび上がって

くる新たな学びの理念を描き直すことも大切だと思います。いま、コロナ禍によって私たちの社会そのものが“幽玄”の森を彷徨っているといっても過言ではありません。しかし、だからこそ、学生諸君とともに学びあい、与えあうことを通じてそのなかに“啓明”の光を見いだそうと努め、求め続けることがキリスト教主義大学としてのあるべき姿だと、私は確信しています。

(こばやし こういち 現代社会学部教授 2021.10.12)

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」等のお話をブックレットにまとめています。ご希望の方は、キリスト教センターへお問い合わせください。大学ホームページからもPDFファイルでご覧いただけます。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洗善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纓)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(相木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？
—こどもの物語と聖書に見られる<しょうがい者>差別—」
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなに人？—問（はざま）から読む聖書—」
(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳—野宿生活者の現場から—」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウィツシュ〜夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)
- No.20. 「宗教が戦争の原因？—一神教がアブナイ？」(桃井 和馬)
- No.21. 「福田敬太郎——神に向き合った生涯」(小野 静雄)
- No.22. 「F.C.クラインと『敬神愛人』」(黒柳 志仁)
- No.23. 「祈りつつ学び、感謝しつつ働く
—内村鑑三、名古屋英和学校赴任のころ—」(葛井 義憲)
- No.24. 「NHK連続テレビ小説『エール』とキリスト教
キリスト教主義大学が大切にしたいこと—『敬神愛人』(西原 廉太)
- No.25. 「『迷い出たダンゴムシのたとえ』がわたしたちを生かす」
(早瀬 和人)